



高女SAH リーダー養成講座開催される

令和7年7月、三者面談期間の午後を利用して、元横浜創英中・高等学校校長の工藤勇一先生を講師として高女SAHリーダー養成講座が開催されました。参加生徒は5人。中会議室という、VIPな雰囲気 of 会議室を会場に、講義やワークショップを75分の講座計4コマにわたり行い、その中で、様々な観点から講義やワークショップを受け、充実した時間を過ごしました。参加者に、最後「自由にほかの生徒への還元のしかたを考えて」とリクエストしたところ、以下のような感想を残してくれましたので紹介します。

平山紗菜

リーダー養成講座??自分をリーダーっぽく作り上げてくれるのか??と興味本意で参加した私は2日間の工藤先生の授業を通して豊かに生きるためのテクニックを学んだ。その中でもここに残すのは、私がまた見返した時にためになりそうな3つのミニテク★にしよう。

まず1つ目は日々の生活にちょっとした仕掛けを作り自分をコントロールすることで私もあの大谷ショウヘイに近づけるということだ。

ショウヘイは野球が大好きだからあれほど活躍する選手になったのかもしれない。しかし1日の練習のノルマが書かれているようなものを毎日目にするところに貼り、それを続けた。ただ続けた。人間は三日坊主が当たり前である生き物だ。そんなやつを騙して習慣化させるちょっとした工夫、仕掛けを作ることこそショウヘイに近づく第一歩になる。私の場合緩やかに下っていくの模試の成績をスマホの充電器の前に貼ることだろう。

2つ目に目的を立てることだ。こんなことはよく知っている、のつもりだった。課題は成績を上げるためにすると一旦思おう。成績を上げるつまり、テストの点数を上げるつまり、わからない問題をわかるようにする必要がある。だがしかし、定期テスト前は星の数ほど多い課題に追われていたら、わからない問題なんて答えを写してさようなら。あーあ成績アップの希望が消えた。避けたいな問題を見つけた時は印をつけ、とことん構ってあげないと。

3つ目は喧嘩を止める方法だ。感情的になったらそこで試合終了らしい。お互い何が不満なのか。お互いどういった意思欲があってその不満が生まれてくるのか。そこを根本までしーっっかり知れば、『なんだ同じこと思ってんっじゃん!』となる。こうして一件落着。本当にそうなのか。私がその進行をして場が白けないか実験してみたい。そもそも喧嘩をするのは自分の意思欲があってであって、人間らしくて可愛い。

最後にこの3つのことはだめだめって思ってしまう人間の行動を全身で受け入れてあげて、解決してあげようとほんのちょっと仕掛けてあげるだけだ。私が得意な古文の文法書に付箋をちょっと貼ってあげるように。

新井葉月

講座が終わった今、私は胸を張って「有意義な時間を過ごした」と言える。

この講座は、（幸運にも？）少人数だったことにより、自分の意見を他の参加者や工藤先生に伝えやすく、また先生が私たちに様々な問いかけをしてくださったので、各々が考えを巡らせ理解を深めながら話を聞くことができた。この講座は「リーダー養成講座」という名前だが、リーダーの在り方だけでなく、自分をどのように変えていくかなど生き方に関する内容も豊富だった。

私が特に心に残った言葉がある。それは「今から少しずつ自分を変えていけば、10年後、20年後には今よりずっと素晴らしい人間になれる」だ。当たり前じゃないか、と思うかもしれないが、これは私の大きな希望となった。自分を変えようと様々なことに挑戦してみても、それに果たして意味があるのかと私はよく考えてしまう。その答えとなるこの言葉を、先生は幾度となく繰り返し私たちに伝えた。

また、先生は「とにかく沢山の経験をするべきだ」とも繰り返し仰っていた。工藤先生の講座の魅力は、先生自身の豊富な経験を活かし、そこで学んだこと・感じたことを分かりやすく伝えてくださるところだと、私は思う。特に、工藤先生が校長先生として働いていた際に起こった、生徒による制服変更は現在の高女と通ずる点もあり、大変興味深かった。

私は「将来を考える際のきっかけ」を求め、この講座に参加した。2日間を通して、その目的はあっという間に果たされた。このような貴重な機会を与えてくださった、工藤先生、学校には大変感謝している。ここでの時間を、学んだことを無駄にせず、生きていきたい。

笹岡莉桜

「リーダー養成講座」私は緊張と不安を抱いていた。しかし、その気持ちは一瞬で吹き飛び、参加してよかったと心の底から思える2日間になった。工藤先生と直接対話をしながら多くのためになるお話を聴くことができた。リーダーがどういうものかというお話だけではなかったが、私はあえてリーダーについて学んだことを伝えようと思う。この講座のはじめに先生は「みんなの思うリーダーとは何か？」と質問を投げかけた。私たちはそれぞれが思うリーダー像を書き出し共有した。（責任感が強い、みんなをまとめてくれる、、、など）多くの人が同じようなイメージをもっているのではないだろうか。

ところで、皆さんがリーダーとして活動する中で、「この人はわかってくれない！」と思ったことはないだろうか。うまく伝わらない時、わかってくれないのは聞く人が悪いのか？話す人が悪いのか？と感じたことはないだろうか。工藤先生は迷わず言った。

『リーダーとは「人は動かなくて当たり前！」「言葉は伝わらなくて当たり前！」と思える人だ』と。

（次ページに続く）

『「言葉」は伝わって初めて価値がある』

この言葉が特に心に響いた。何をするときでもわからず屋がいたり自分に対して好意的ではない人がいたりする。彼らに向けて伝えたいことがあるときに大切にすべき考え方である。彼らの心を揺さぶることが言葉を伝えるということの第一歩になるかもしれない。そのために大切にすべきことは「自分の言いたいことではなく、相手の聞きたいことを話す！結論は最初に！」これを意識したうえで、心揺さぶる言葉を探し、話す順番を考えることが大切だと学んだ。

これらの考え方は決してリーダーだけに必要なものでも、全員が同じように捉えなければいけないものでもない。充実した2日間で学んだことのほんの一部が、何かの参考になれば。

小須田菜月

私がこの講座に参加しようと思ったきっかけは、山岳部をもっと団結させたかったからだ。年々部員数が増加している山岳部が山体崩壊を起こしてしまわないように、集団を作るノウハウを学びたいと思った。ここでは2日間の講座を通して教わったことの中で特に印象に残ったことを2つ書かせていただく。

●メタ認知とは、自分のありのままを受け入れ『自分の取扱説明書』を作ること
あなたは「三日坊主」を経験したことがあるだろうか？実は三日坊主は脳の仕組みのせいで起こることなのだそう。これは人間の脳が行動のほとんどをパターン化して無意識のうちにこなしており、それ以外の新しいことを始めることを嫌うからであるという。またこのパターンは習慣化したいことを何度も繰り返せば新しく作ることができる。そして、工藤先生が言った「メタ認知能力」とは自分のありのままの考え方のクセや行動を熟知し、どうしたら自分はその行動を繰り返せるのか、自分を動かすトリガーを作る力だ。つまりメタ認知能力とは「自分を変える力」なのである。これを使えば行動だけでなく考え方も変化させられる。「自分はネガティブな考え方をする癖があるからポジティブになりたい！」そんな高女生は是非試してみしてほしい。10年続ければ新しいパターンが作られて、自分を変えることができるはずだ。

●リーダーとは「人は動いてくれなくて当たり前」「言葉は伝わらなくて当たり前」と思える人

講座のはじめにリーダーとはどんな人であるかについてグループワークを行った。人を引っ張っていく人や意見をまとめる人などさまざま意見が出たが、工藤先生が考えるリーダーはそのどれでもなく、「人は動いてくれなくて当たり前、言葉は伝わらなくて当たり前と思える人」なのだそう。あの人もしてくれない、この人話聞いてなかったの！？誰しも一度は感じたことがあるであろうこんな悩みは実は当然のこと、そこに悩む必要は微塵もない。将来リーダーになる機会があれば、このことを思い出してほしい。少し気が楽になるんじゃないだろうか？

(次ページに続く)

とはいえ絶対に伝えたい言葉もあるだろう。そんな時には、話す相手と順番を意識すると良いらしい。具体的には話をする時に自分を嫌いな人に向けて話を聞かせることを意識し、興味を持つような一言を本題と伝えるようにする。「言葉は伝わらなければ価値がない」というのも工藤先生が何度も繰り返し言っていたことだ。順序と内容を工夫して言葉を伝える力を養っていききたい。

以上が2日間の内容の中で特に印象に残った2つのことだ。正直講座を受ける前は少しめんどくさかったが、結果的には有意義な時間を過ごすことができた。もしこれを読んだあなたが少しでも講座に興味を持ってくれたなら、次にこんな機会があった時には実際に参加してみることを強くおすすめする。第一人者に話を聞くという体験はなかなかできることではない。高女生の行動力（とエージェンシー？）をフル活用して貴重なチャンスを自分のものにしていこう🌟

吉田久琉妙

私がリーダー養成講座に参加しようと思った理由は、山岳部の部長に誘われ、自分は副部長としてどのような行動ができるのかを知りたかったからだ。また、自分の将来に活かせることを学びたいと思ったからだ。ここでは、この講座で印象に残ったことを紹介しようと思う。

1つ目は、世界で見ると日本の入試方法は一般的なものではないということである。日本、中国、韓国などは筆記試験が中心であり一発勝負であることが多いが、他の国々は筆記試験をあくまで参考資料の1つとして、内申やエッセイ、課外活動、面接などをバランスよく見ている。私は日本のやり方が普通だと思っていたが、それは私が日本にいるからそう感じていただけで、世界的に見ると遅れていることがわかった。そのため、これからは固定概念にとらわれず、もっと広い視野で物事を見ていきたいと思う。

2つ目は、三日坊主は脳のしわざだということである。新しいことを始めるとどうしても続かなくなってしまう。そのため、固定化してしまった自分のパターンを自分の力で変える力を持てばよいのだ。しかし、それでも続けられないのであれば、新しいことを繰り返すための仕掛けを作ればよいということである。例えば、自分が決めた目標を紙に書き、それをよく目にするところに貼るという工夫をすることだ。私は、行きたい大学があり、将来やりたい仕事がある。しかし、怠けて勉強に集中出来ないことがある。そのため、大きな目標から毎日続けるような小さな目標までも紙に書き勉強机の前に貼って、いつでも見れるようにしておきたいと思う。

以上のことが特に印象に残ったことだ。2日間工藤先生の講座を受けて、とても有意義な時間を過ごしたと思っている。この2日間で学んだことを無駄にせず、これからに活かしていきたいと思う。

以上、参加した生徒の感想でした。これらから、参加した生徒が互いに、またこれを読んだ高女生や広く本校のブログに関心を寄せて読んでくれた人が、何かしら新たなきっかけを得て、ほかの人とともによりよい人生、よりよい社会をつくっていくことに関心を高め、動いていってくれたら、と願います。

また、工藤先生は、このリーダー養成講座の概要をまとめている『15歳からのリーダー養成講座』（幻冬舎）という本も執筆されています。講座に参加できなかったけれど、参加生徒の感想を読んで関心をもった人は是非、本を手にとってみてください。工藤先生、貴重な機会をありがとうございました。